

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	大腸癌肝転移における術前 PET/CT 検査の意義
研究責任者	外科学第二講座 坂口 孝宣
研究機関名	浜松医科大学
研究目的と意義	1980 年以降、がんは日本の死因の第 1 位であり、2011 年の癌死亡数は 1985 年の約 2 倍になっている。特に大腸癌は手術療法、化学療法、放射線療法をはじめとした治療の進歩により、大腸癌患者の生命予後は改善されてきたが、依然として我が国の癌死亡の上位を占めている。大腸癌術前の CT 検査にて肝転移が疑われる症例では、全身検査の一環として FDG-PET/CT 検査が頻用されている。しかし、不必要な検査は被爆や医療費増大などの悪影響を及ぼすことも近年報告されており、大腸癌術前検査における FDG-PET/CT の検査が疑問視されている。本研究では、当院で診断された大腸癌肝転移症例を解析し、独自の PET 推奨基準を定め、その妥当性を検証することで大腸癌肝転移術前検査における PET/CT 検査の必要性を検討することを目的とする。
研究期間	西暦 2016 年 3 月（倫理委員会承認後） ～ 2017 年 3 月
研究方法	<p>●対象となる患者さん：</p> <p>2002 年から 2013 年に当院において大腸癌による転移性肝腫瘍と診断され、術前の検査で切除可能と判断された患者さん。</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1) 採血結果 (2) 胸腹部 CT 検査 (3) 腹部 MRI 検査 (4) FDG-PET/CT 検査</p> <p>●研究方法</p> <p>大腸癌転移性肝腫瘍手術前および手術後の血液検査、各種画像検査（CT、MRI、PET）結果を抽出し、FDG-PET/CT 検査の有無における術後の再発率や予後との関係を後ろ向きに解析する。</p>
問い合わせ先	〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：外科学第二講座 担当者：講師 坂口孝宣 TEL：053-435-2279 FAX：053-435-2273